

## 令和2年度 地域密着型研究課題

| No. | 研究テーマ                                    | 事業の概要  | 実施期間               |
|-----|--|--|--------------------|
| 1   | 特定健診データの解析による<br>県民健康実態調査                | 県内の複数保険者の特定データを集約し、疫学的に解析する。   | H29年度<br>～<br>R2年度 |
| 2   | レジオネラ対策におけるATP<br>測定方法の実用化に関する研究         | 県内温泉の温泉水のATP値を測定し、ATP測定に影響を及ぼすと考えられる要因を把握して、ATP測定法の温泉水における活用法を探る。また、同測定法の温泉施設における自主管理への展開を図れるよう、活用方法の提案を目指す。   | H30年度<br>～<br>R2年度 |
| 3   | 下痢原性大腸菌検索における<br>検査手法の検討                 | 食中毒等健康危機管理事案発生時の下痢原性大腸菌検査において、より効率的に大腸菌を検出可能な培養方法を検討し、実用化のための評価を行う。  | H30年度<br>～<br>R2年度 |
| 4   | 岐阜県におけるマダニ媒介性<br>感染症のリスク評価               | 岐阜県内におけるマダニ分布と病原体保有状況を調査してリスク評価を行うとともに、マダニからの病原体遺伝子検出法について検討を行う。   | H29年度<br>～<br>R2年度 |
| 5   | 構造判定が困難な指定薬物の<br>同定に資する基礎研究              | 指定薬物等の規制薬物とその構造が類似する規制対象外薬物の識別では、誤同定の防止が課題となっている。本研究では、岐阜危険ドラッグ解析技術連携協議会の枠組みの中で、岐阜県科学捜査研究所等に協力を求め、これらの構造が類似する化合物を分析対象とし、質量分析計を用いた各種データを収集・解析することで化合物の構造推定を行い、正確に同定することを目的とする。また、共同研究者である岐阜薬科大学薬物動態学研究室とは、各種実験系を用いた代謝挙動の研究を連携して進めていく。 | R2年度<br>～<br>R3年度  |
| 6   | 岐阜県における微小粒子状物<br>質の地域特性に関する研究            | 微小粒子状物質（PM2.5）の成分分析について、行政検査の結果に産業活動に伴う燃焼に関する指標のひとつとなる水溶性有機炭素の結果を追加し、統計解析することで、地域特有の発生源及びその寄与割合を推定し、岐阜県におけるPM2.5の地域特性を把握することを目的とする。  | H31年度<br>～<br>R3年度 |
| 7   | 災害等緊急時に適用可能な<br>GC/MSデータベースの構築に<br>関する研究 | 災害発生時に健康影響が懸念される中揮発性の化学物質を対象とし、分析機器（GC/MS）のメーカーに依存しない測定条件を確立する。またその測定条件を基にした化学物質の基礎データを集積することで、災害発生等緊急時における化学物質の汚染把握に適用可能なGC/MSデータベースの構築を目的とする。  | R2年度<br>～<br>R4年度  |
| 8   | 大気中のPAHキノン類と光化学<br>オキシダントに関する研究          | 現在、光化学オキシダントの環境基準達成率は全国でほぼ0%であり、低減化対策が求められている。その中、大気中の多環芳香族炭化水素（PAH）キノン類は、光化学オキシダント発生の原因解明や長距離輸送の中長期的な評価の指標として注目を集めている。そこで、PAHキノン類の分析法を確立し、大気試料を分析、解析することにより低減化対策に関する知見を得ることを目的とする。  | R2年度<br>～<br>R4年度  |
| 9   | 有毒植物による中毒の症状と<br>成分の関連性の解明               | バイケイソウやアジサイなどの有毒植物による中毒において、中毒残品のLC/HRMSによる網羅的成分分析の結果をもとに、中毒症状を考察し、中毒症状と毒性成分との関連性を明らかにする。  | H30年度<br>～<br>R2年度 |
| 10  | ヒ素分析法に関する検討と岐<br>阜県産農産物のヒ素含有量の<br>実態調査   | 新ヒ素試験法（通知法）とほかの試験法を比較し、行政検査として採用する検査法の条件検討をするとともに、厚生労働省のガイドラインに基づく妥当性評価を行う。また岐阜県産玄米のヒ素含有量の実態調査、現状把握を行う。  | H31年度<br>～<br>R2年度 |
| 11  | 食品添加物の分析法に関する<br>検討                      | ソルビン酸異性体の同定及び異性体を含めたソルビン酸の定量方法について分析メソッドを確立する。さらに、食品別の異性体出現率、異性体存在比率変化、異性体化促進因子について解析する。また、迅速性、省コスト性の向上と共に人工甘味料の検査項目の拡充を図る。  | H30年度<br>～<br>R2年度 |